

印西大師 第79番 草深・丸山観音大師堂

1 名称 (No.079)〔手引鏡：天王堂〕〔資料館：草深八十八ヶ所天王堂〕〔行程表：仲側・天王堂〕

2 場所 印西市草深922 丸山観音堂

そうふけふれあいの里（旧草深小）の南
草深・妙光寺から道程約970m

GPS座標 35.794718419468765, 140.15121559627548

3 由緒 天台宗

丸山堂は天台宗で妙光院に所属し如意輪観音を本尊とする、管理者は香取家。（平成6年寺院堂庵明細表）

仲の側の丸山観音堂は、安永7年(1778年)に香取平左衛門信賢が創建した。そのわけは、宝暦年中(1751～64年)に嶺雲院(天王様)が江戸に引寺になり、元禄4年(1691年)に印西巡礼の札所となった聖観音像が持ち去られてしまったので、平左衛門所持の丸山庵地のうちに観音堂を建て、ここを（印西荘三十三ヶ所観音巡礼の）二十五番の札所としたのである。（「印西町史資料集近世編4」P.74）

4 御堂 印西大師第79番の御堂の中に丸彫りの御大師様が1体あり。印西町調査報告書によると台座正面には文政12年(1829年)の銘があるほか、台座右面には香取忠右エ門など5人の世話人の名がある。

5 境内 印西大師第79番の御堂のほか、大師堂、観音堂、仲ノ側集会所があり、さらに草深野鹿の歌碑、草深開墾三百年記念の碑などの石造物がたくさんある。丸山観音堂は銀杏の黄葉がきれいです。

6 写真 (2021.11、2023.02、2023.03撮影)



印西大師第79番の御堂



御大師様



印西大師第79番(左)と大師堂(右)



仲ノ側集会所



大師堂前の楓



銀杏の黄葉の丸山観音堂

7 情報

(1) 印西大師 第79番 天王堂 御詠歌（泉倉寺本による）

十楽の浮世の中を尋ぬべし 天皇さへもさすらへぞある

四国八十八ヶ所 第79番 真言宗御室派 金華山(きんかざん) 高照院 天皇寺(てんのうじ) 本尊 十一面観音菩薩（香川県坂出市） 写し

泉倉寺本には「讃岐崇徳天皇寺写し」とある。天皇寺は、寺院境内に崇徳天皇社が造営され、後嵯峨天皇による永代別等職の詔を賜り、崇徳天皇供養の寺、崇徳天皇寺と呼ばれるようになったという。

(2) 丸山観音大師堂が第79番、天王前（嶺雲院跡）は番外札所

「大師堂 志宇楽の浮世の中を尋ぬるべし 天のうさへもさすらひぞある 昭和37年3月仲組の霊札のかかった祠の中に、『文政十二年南大師返照金剛十一月吉日』とほられた台座の上に、赤い頭巾とよだれかけをつけた大師様がちょこなんと鎮座ましましています。この大師堂は現在は印西大師第七十九番になっているが、前述のごとく、（印西順礼の）三十三ヶ所の第二十五番であった。本家をすっかりこちらに奪われたかっこうの天王様（嶺雲院跡）境内の大師は七十九番の番外になっている。「(山本忠良「草深野開拓～千葉ニュー・タウン開発前史～」 崙書房1979年2月発行)

(3) 丸山観音堂

仲の側（草深小学校わき）の丸山観音堂は安永七年（1778年）に香取平左衛門信賢が創建した。そのわけは、宝暦年間に嶺雲院（天王様）が江戸深川へ引寺になり、元禄四年に印西順礼の札所となった聖観音像も持ち去られてしまったので、平左衛門は何処からか如意輪観音を求め来て本尊とし、ここを新たに印西二十五番の札所にしたものである。現在堂は三間四方のトタン葺きであり、「六軒党」（請方十五人のうち草深に残った六人の子孫）持ちである。（印西町文化研究会「郷土の文化財」昭和56年7月発行）

(4) 第79番札所は妙光院だった？

明治39年の梶原納経帳によると第79番札所は草深 明光院（本尊 阿弥陀如来）とある。明光院（みょうこういん）とは、御本尊も同じなので妙光院のことと思われる。とすると明治39年頃の第79番札所は、天王前でも丸山観音大師堂でもなく、妙光院だったということになる。

(5) 野鹿の碑

丸山観音堂の境内の一角に、高さ145cmほどの自然石型の歌碑が立てられています。この碑は、文政6年(1823)、香取平左衛門利彰(朋径)により建立されたもので、「野鹿の碑」と呼ばれています。碑の正面には、朋径の歌師であったといわれる富小路貞直の「草婦か支野辺野まは幾の花妻を こふるをしか母色耳いでけ里」（草深し野辺のまはぎの花妻をこふるをしかも色にいてけり）の歌が刻まれており、また、裏には、朋径（号名華笑百合満）をはじめ、松之舎興清、俳諧歌場真顔らの歌3首が刻まれています。このことから、当時農村だった草深において、江戸文化との交流があったことがうかがえるとともに、いくつもの号名を持ち各方面で活躍した朋径が、この地に文化の光を差し込ませたことを今に伝えています。（印西名所図会）

(6) 丸山観音堂の雑俳額

草深小学校に隣接したところに丸山観音堂があります。この観音堂は安永7年(1778)、香取平左衛門信賢により創建されたものですが、如意輪観音を本尊としています。この観音堂には、享和3

年(1803)、野鹿の碑の創建者である香取平左衛門利彰ら3名が願い主となり、地方の愛好者も含め52句が納められた雑俳額が奉納されています。保存状態があまり良くないため読解しにくい部分もありますが、町内最古のものとして貴重です。(印西名所図会)

2024.03一部修正

印西大師 番外 草深・大師堂 (草深八十八ヶ所天王堂)

- 1 名称 (No.079)〔手引鏡：天王堂〕〔資料館：草深八十八ヶ所天王堂〕〔行程表：仲側天王堂〕
- 2 場所 印西市草深922 丸山観音堂
そうふけふれあいの里 (旧草深小) の南
草深・妙光寺から道程約970m
GPS座標 35.794718419468765, 140.15121559627548
- 3 由緒 天台宗
大師堂は陣屋脇921にあり妙光院に属し、89体の弘法大師を本尊とする。(平成6年寺院堂庵明細表)
- 4 御堂 大師堂の中に丸彫りの御大師様が89体あり。
- 5 境内 大師堂のほか、印西大師第79番、観音堂、仲ノ側集会所がある。隣は墓地。
- 6 写真 (2023.02撮影)



大師堂



大師堂の中に89体の御大師様



大師堂の中に89体の御大師様

7 情報

(1) 印西大師 第79番 天王堂 御詠歌 (泉倉寺本による)

十楽の浮世の中を尋ぬべし 天皇さへもさすらへぞある

四国八十八ヶ所 第79番 真言宗御室派 金華山(きんかざん) 高照院 天皇寺(てんのうじ)

本尊 十一面観音菩薩 (香川県坂出市) 写し

泉倉寺本には「讃岐崇徳天皇寺写し」とある。天皇寺は、寺院境内に崇徳天皇社が造営され、後嵯峨天皇による永代別等職の詔を賜り、崇徳天皇供養の寺、崇徳天皇寺と呼ばれるようになったという。

(2) 草深八十八ヶ所天王堂

89体の大師像が祀ってある大師堂は、文久年間(1861-63)、備後国御調郡(現在の広島県向島

町)出身の旅の僧、亮観の発案によるといわれています。89体のうち、66体の尊像は、亮観の信仰心に感銘した村人が寄進したといわれ、それぞれの台座には、文久2年と3年(1862-63)の年号と村人の寄進名が刻まれています。このような大師堂は、四国八十八ヶ所を小型化したもので、一堂を拝観すれば、四国巡礼したのと同じ御利益があるという信仰から、当時各地方に設けられていました。印西には、この草深の大師堂のほか、印西地方を巡礼する新四国印西大師や、武西、船尾を中心とする船穂地区の小廻り大師(彼岸大師)などがあります。これは、一地方から一村、一寺、そして一堂というように、霊場を縮小化させて各地に設けているもので、当時の印西地方の大師信仰の厚さがうかがえます。(印西名所図会より)



印西名所図会には大師像が89体とあります。内訳は、第1番～21番と第88番は文久2年(1862年)、第22番～87番は文久3年(1863年)、第89番は慶応元年(1865年)の造立です。ところが御堂の中の右側の一番下の御大師様(写真右下の御大師様)を見ると、台座に「九十番 四国霊場巡拝記念 平成元年」と記されています。その左隣の御大師様の台座には「慶応元年」(1865年)「八十九番」、さらにその左隣の御大師様は「文久二年」(1862年)「八十八番」とあります。89番までは江戸時代末期に造立され、130年余り経て平成元年(1989年)に1体増えて現在は90番まである、石像が90体あるということでしょうか。印西町町史編さん室から印西名所図会が発行されたのが平成5年なので九十番の御大師様を見ていると思われます。その上で89体の大師像と書いているのはなぜでしょうか。九十番の御大師様を含めて89体なのか、それとも平成5年の段階では九十番の御大師様は無かったのか。

(3) 亮観

「一昨年八月初旬、突如、吉原佐五兵衛の御子孫の方から、『あなたの本で亮観のことを知りましたが、私は一族の者です。是非亮観の石碑と大師堂の写真を送っていただきたい。』との電話があった。御子孫の方は現在向島町で吉原胃腸病院を開業しているという。さらにお話を聞くと、『江戸時代末期に何代目かの吉原佐五兵衛が死んだ。その時、弟の吉兵衛は四国の金比羅参詣に出かけて、そのまま行方知れずになった。』と。」(山本忠良著「印西外史」より)

2024.02一部修正